

県内3人 初の特選

独白の表現追い求め

彫刻

森田 一成さん (32) 富山市



作品の出来栄を確認する森田さん＝富山市内のアトリエ

手足は途中で失われ、顔立ちもはつきりしない。豊かな体型は、均整の取れた写実的な女性像が中心の会場で、強い個性を放つ。日展らしくないと批判さ

れることもある。「賛否が出るのは注目されている証し」と意

に介さない。熊本の崇城大・大学院で9年

期待裏切る創作続ける

間、彫刻を学び、在学中から日展で入選を重ねてきた。卒業後は富山に戻り、仕事をしながら活動している。かつては「スタイルの美しい女性」を作っていた。ある時、日展会場に行くと誰も自分の作品に目もくれない。「100人に1人でも足を止めてほしい」。



「明日の光」

そんな思いから現在の作風にたどり着いた。

受賞作「明日の光」のテーマは「母なる大地」。自然への畏敬と畏怖の念を女性像に託した。

頭から手足の先まである程度を粘土で作った後、直感の赴くまま、手で剥ぎ取っては付け直す作業を繰り返した。ごつごつした岩の塊のような造形はこうして生まれた。

特選は一つの転機と捉えている。「同じものしか作れないと思われたくない。良い意味で期待を裏切る作品を発表したい」。瞳の奥の輝きが増した。